

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011 年 10 月 4 日

派遣者氏名（専門分野）	後藤敦史（日本近世・近代史）
-------------	----------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	19 世紀前半～中頃の東アジア世界と江戸幕府の外交政策
-------	-----------------------------

派遣期間

2011 年 8 月 2 日 ～ 2011 年 9 月 30 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	アメリカ合衆国	ワシントン D.C.	アメリカ議会図書館	
	〃	〃	アメリカ国立公文書館	
	〃	カレッジパーク	アメリカ国立公文書館 II 館	

派遣先で実施した研究内容

派遣者は、1854 年から 1856 年にかけて北太平洋海域一帯を測量したアメリカ測量艦隊に関して、アメリカ議会図書館およびアメリカ国立公文書館で調査を行った。北太平洋測量艦隊は、1855 年に日本に来航しており、徳川幕府の外交政策にも大きな影響を与えている（詳細は拙稿「海防掛目付方の開国論の形成過程」『日本史研究』576 号、2010 年）。したがって、同艦隊に関しては、アメリカ史のみならず、日本史、そして、より広域の環太平洋史という視点からも研究が可能である。派遣者は、従来の日本史に関する研究を活用しつつ、同艦隊の具体的な派遣の経緯やその動向、そしてそれが当時の徳川幕府に与えた影響を考察することによって、より広い視点から 19 世紀の環太平洋史を研究することを目指している。

以下、派遣者が実際に訪れた機関の順に、調査の概要を説明する。

まずアメリカ議会図書館では、議会の議事録類から、北太平洋測量艦隊が派遣されるまでの具体的な経緯について調査を行った。北太平洋測量艦隊は、ペリーの日本遠征艦隊が派遣されることとなったのとほぼ同じ時期に議会で派遣が決定されており、議事録類からは、ペリー艦隊との関連や、アメリカの環太平洋政策の一環として北太平洋測量艦隊の派遣が決定されていく具体的な経緯を追うことができた。

また、議会図書館のマニュスクリプト・リーディング・ルームには、測量艦隊の司令長官を務めていたジョン・ロジャーズの書簡類が所蔵されている。それらの一部については、昨年度に参加した「横断的研究視察」（2010 年 9 月 2～13 日）において調査を行ったが、今回、その残りの史料について調査し、撮影を行った。

一方、アメリカ国立公文書館の II 館（カレッジパーク）には、測量艦隊の作成した海図などが所蔵されているということが先行研究でも紹介されている。ただ、簡単な紹介にとどまっており、体系的な目録類は未だ作成されていない。そこで派遣者は II 館の Cartographic and Architectural Records Section（画像資料室）に収蔵されている同艦隊関連の海図を調査・撮影し、目下、その目録の作成を行っている。

また、同じⅡ館のマイクロフィルム室には、アメリカの国務長官が各国に派遣される公使などに宛てた通達書のマイクロフィルムが所蔵されている。同館のマイクロフィルムについては、マイクロリーダーに映じた画像を自由に撮影することができるため、派遣者は数日をかけて1850年代後半から60年代初頭の史料を撮影した。また、この中から、1850年代後半にアメリカ総領事タウンゼント・ハリスに対して通達された史料を調査し、その結果、ハリスに対し、北太平洋測量艦隊が日本で収集した情報が伝達されていたということを実証する史料を発見することができた。

最後に訪れたのが、国立公文書館本館（Ⅰ館・ワシントン D.C.）である。同館のマイクロフィルム室には、測量艦隊の公式の航海記録や司令長官ロジャーズの公的書簡類などがマイクロフィルムとして収められている。同館もⅡ館と同じくマイクロリーダーの画像をそのまま撮影することができる。マイクロフィルムは全27巻の膨大なものであり、全てを撮影することは不可能であったが、ロジャーズの公的な書簡類や、日本近海における航海記録などの撮影を行った。

なお、国会図書館の地図室では、測量艦隊の帰国後に刊行されたであろう海図を探した。自身の手で発見することはできなかったものの、同室のスタッフにより、1点だけではあるが、1857年に刊行された海図を発見することができた。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

本派遣期間において、派遣者は当初の計画以上に研究を進めることができた。まず、国会図書館で膨大な議事録類の中から、国会図書館内で利用できるデータベースによって、簡単に測量艦隊に関連する議事録を特定することができた。これにより、派遣期間初期の調査が非常に円滑に進み、なおかつ予想以上に測量艦隊関連の議事録が存在していたことから、同艦隊の派遣の具体的な経緯を詳細に知ることができた。

また、アメリカ国立公文書館のⅡ巻では、予想していた以上に測量艦隊関連の海図が収められていることが判明した。先行研究では、20点程度と紹介されていたが、これはおそらく日本関係の海図のみを指しており、日本に限らない北太平洋海域一帯の海図を含めると、約100点の海図を確認することができた。この調査・撮影は本派遣期間の中でも最も時間がかかったが、この調査により、詳細な目録を作成することができ、学界に大きく貢献することが可能であろう。

これらの史料調査により明らかにできた成果としては、北太平洋測量艦隊の派遣および動向が、アメリカの環太平洋政策と明らかに密接な関わりを有していた、という点を実証できる、という点である。撮影した史料の実際の閲読は今後進めて行かなくてはならないが、環太平洋史の枠組みの中で同艦隊の歴史的意義を位置づけることが期待される。

派遣後の研究発表の予定

本調査により得た議事録類などを用いて、艦隊の派遣経緯および実際の測量に関する論文を早速にも作成したい。